



冬に活躍した菜の花と紅菜苔の片付けをしました。
春休みで畑に来た子どもさん達も大きな株をがんばって
抜いてくれました。(3/29 撮影)

菜の花の片付け

お届けの野菜

小松菜、カブ、出島じゃがいも（船橋市坪井の斎藤農園さん）、レタス
筍（2品扱い）-米ぬかをお茶パックに入れると楽です。-

簡単レシピ ♀かぶの塩昆布炒め

・かぶ ・かぶの葉 ・ベーコン ・塩昆布 ・塩 ・オリーブオイル

①かぶをくし型切り。

葉っぱは、軽く茹で水気を絞ってから5センチくらいに切る。

ベーコンは、1センチ幅くらいに切る。

②オリーブオイルをフライパンに入れ、ベーコンを軽く炒めたら、かぶを入れて少し焦げ目がつくくらいに炒めたのち、葉っぱを入れて、少し炒めてから塩昆布と塩で味付けしたら30秒くらい炒めて出来上がり〜♥ （キッチンヴェスタさん） ・簡単なのにおいしいですよ。（荒木）—再掲—

作業日誌

レッドムーンじゃがいもの植え付け、リーフレタス・きゅうり・かぼちゃ・ズッキーニ・キャベツの種まき、サニーレタス・トレビス・葱苗の定植、なす・ピーマン・カラーピーマン・セロリ・パセリ・パジルの鉢上げ、スナップエンドウの網張り、終わった野菜の片付け、耕運等。

読んで 観て 聴いて! (4月)

本や映画やコンサート等の話題を畑のお手伝いの箭田川さんが
紹介してくれます。

「夢見る帝国図書館」中島京子著

本屋で題名を見て、「帝国図書館って何処?」「帝国図書館って何?」

「夢見るってどういうこと?」と、読まずにはいられなかった。主人公は、自称小説家。上野公園のベンチで白髪の女性喜和子さんと出会い、言葉を交わしていくうちに親しくなり、家を訪れる間柄になるが、いつの間にか疎遠になってしまう。その後、老人ホームで亡くなった喜和子さんを偲ぶなかで、彼女の苦しかった半生が明らかになっていく。それと並行して、明治時代に建てられた帝国図書館（現国際子ども図書館）の歴史が25回にわたって綴られている。喜和子さんの人生と帝国図書館はどう繋がっているのか。厳しい生活の中で、心の拠り所になっていたのかもしれない。正直、二つのストーリーが組み込まれた本書は読みづらかったが、筆者の熱い思いと、国際子ども図書館の存在を知ることができた。表紙は、帝国図書館の中に喜和子さんの愛すべき4畳半の家が描かれていて、まさに『夢見る帝国図書館』だ。じっと見てみると、何だか切なくなってくる。



4/27 (木) かぶ・小松菜等

野菜の傷みや代えて欲しい野菜がありましたらご連絡頂けると助かります。